

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

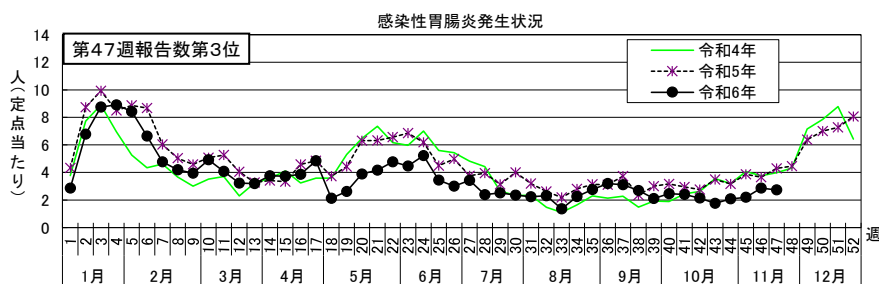
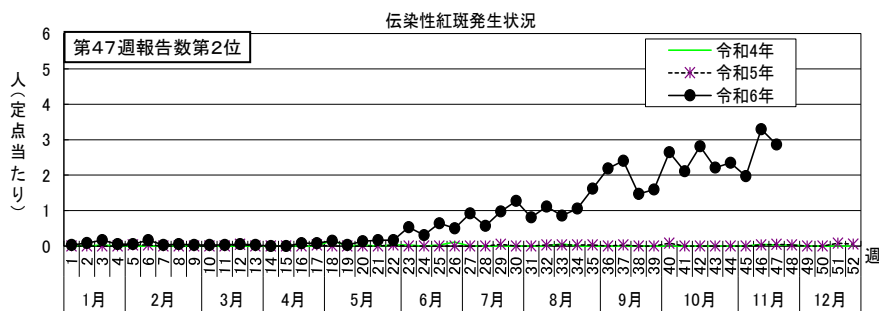
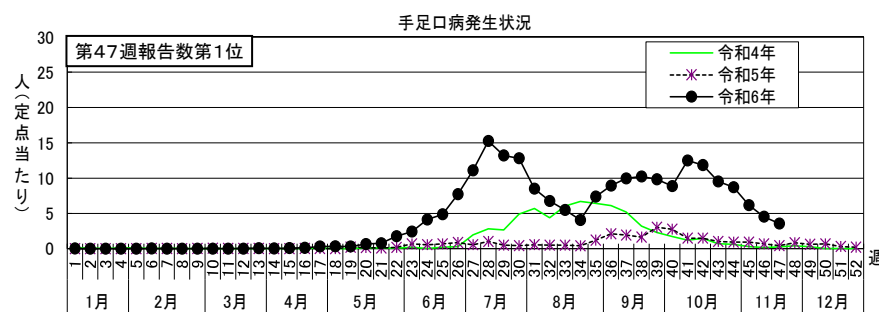
令和6年11月18日（月）～令和6年11月24日（日）〔令和6年第47週〕の感染症発生状況

第47週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）伝染性紅斑 3）感染性胃腸炎でした。

手足口病の定点当たり患者報告数は3.57人と前週（4.54人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は2.86人と前週（3.30人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.73人と前週（2.86人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



百日咳が流行中～乳児への感染を防ぎましょう！～

百日咳は年齢を問わず感染する疾患ですが、成人は軽症の場合が多く、気が付かないまま感染源となることがあります。特に生後6か月以下の乳児は重症化しやすく、死亡する可能性もあるため、感染を防ぐことが重要です。

川崎市では、今年は6月以降、百日咳の報告数が急増しており、特に0～9歳の割合が59.6%と、昨年（47.6%）より増加しています。

百日咳菌の気道からの排出は、咳症状が現れてから約3週間持続しますが、早期に適切な抗菌薬を使用することで排菌期間が短くなり、感染拡大を防ぐことができます。咳が続く場合は早めに医療機関を受診しましょう。

百日咳とは

【病原体】

百日咳菌

【感染経路】

咳やくしゃみ等による飛沫感染、接触感染

【主な症状】

- ①カタル期：5～10日間の潜伏期間の後、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
- ②痙咳期：短く激しい咳が連続して起こり、息を吸う時に笛のような音が出る咳発作がみられる。
- ③回復期：激しい咳が消失した後も、発作性の咳が継続する。

【予防方法】

百日咳含有ワクチンの接種（5種混合ワクチン等）

